

シラバス（講義概要）

芸術工学

芸術工学特論 A

前期・必修・2単位

Advanced study of Arts and Design A

担当教員 シュワーベ・カスパー・長野真紀・山崎均・佐藤優・
齊木崇人・大内克哉

到達目標（目的含む）

芸術工学の基幹科目として、人類が自然界を理解し、生み出したかたちや空間を学び、現代の科学技術と芸術文化を融合させたアート・デザイン・メディアの多様な表現を学ぶ。

授業の概要

自然界に潜む点、線、面、立体によって生み出される幾何学的構造の法則や、かたちや空間構成の魅力を①理論的に分析考察し、②ワークショップによりかたちや空間の製作技法やプロセスを体験し、それらの成果を生かした③プレゼンテーションをおこなう。履修のまとめとして、④未来社会が求める新しいかたちの文化生態的価値を仮説・考究する。

授業計画

- 1：オリエンテーション（齊木・佐藤）
- 2：芸術工学とは（齊木・佐藤）
- 3：かたちの幾何学①（シュワーベ）
- 4：かたちの幾何学②（シュワーベ）
- 5：学外ミュージアム体験（竹中大工道具館）①（全員）
- 6：学外ミュージアム体験（竹中大工道具館）②（全員）
- 7：学外ミュージアム体験（竹中大工道具館）③プレゼンテーション（全員）
- 8：未定（源田）
- 9：未定（源田）
- 10：未定（野老）
- 11：未定（野老）
- 12：空間を埋め尽くすかたち スペースパッキング①（谷岡）
- 13：空間を埋め尽くすかたち スペースパッキング②（谷岡）
- 14：プレゼンテーション①
- 15：プレゼンテーション②

授業時間外学習

テキスト「ジオメトリック・アート」を授業の前後に読んでおくこと。

評価方法

何回かのレポートおよび最終日のプレゼンテーションで評価する。

使用テキスト

「ジオメトリック・アート」、講義ごとに資料配布

芸術工学特論 B

後期・必修・2単位

Advanced study of Arts and Design B

担当教員 大内克哉・シュワーベ・カスパー・長野真紀・山崎均・
佐藤優・齊木崇人・香山リカ

到達目標（目的含む）

芸術工学の基幹科目として、人類が自然界を理解し生み出したかたちや空間を学び、現代の科学技術と芸術文化を融合させたアート・デザイン・メディアの多様な表現を学ぶ。

授業の概要

本講義では自然や社会、環境、テクノロジーといった広範なテーマを取り上げ、各分野における専門の担当教員により①理論的に分析考察し、デザインとの関わりを議論する。また、いくつかのテーマに対しては②ワークショップを通じての体験により、それらのより深い理解を目指す。③履修のまとめとして、履修者は特に関心を持った授業内容に対して、本人の解釈を踏まえたプレゼンテーションを行うことにより、研究に対する新しい知見を得るとともに、④未来社会が求める新しい文化生態的価値を仮説・考究する。

授業計画

- 1：オリエンテーション及びカオスとフラクタル（大内）
- 2：暮らしと芸術工学（長野）
- 3：ミュージアムの想像力（コレクション×キュレーション）（山崎）
- 4：ミュージアムの想像力（星・文学・アート）（山崎）
- 5：いま、「地球」をどう生きるか？①（岩崎）
- 6：いま、「地球」をどう生きるか？②（岩崎）
- 7：未定（西村）
- 8：未定（西村）
- 9：テンセグリティ①（シュワーベ）
- 10：テンセグリティ②（シュワーベ）
- 11：AIと命—ロボットが人を診る時代は来るのか？①（香山）
- 12：AIと命—ロボットが人を診る時代は来るのか？②（香山）
- 13：プレゼンテーション①（全員）
- 14：プレゼンテーション②（全員）
- 15：プレゼンテーション③（全員）

授業時間外学習

テキスト「ジオメトリック・アート」の必要な箇所を授業前と授業後に読んでおくこと。

評価方法

毎回の授業中に行う小レポートおよび最終日に行われるプレゼンテーションより評価する。

使用テキスト

「ジオメトリック・アート」、講義ごとに資料配布